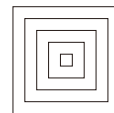


2012 年度情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館認定式

旭 寛治

(株) 日立製作所



情報処理学会歴史特別委員会では、現存する情報処理技術関連の貴重な史料に対して、その保存の努力を称えるとともに末永く後世に伝えることを目的として、情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館の認定制度を設けている。2008 年度から毎年全国大会の場で認定式を行い、情報処理技術遺産には認定証の盾を、また分散コンピュータ博物館には認定書とプレートを、それぞれ関係者に贈呈している^{1) ~ 4)}。

□ 今年の認定式

昨年までは、歴史特別委員会主催のセッションである「私の詩と真実」の冒頭で認定式を行っていた。したがって参加者は情報処理の歴史に関心のある人々が中心であり、人数もそれほど多くはなかった。

今年は、大会初日の 3 月 6 日の午後、大会優秀賞等の表彰式に続けて同じ枠の中で認定式を実施した。430 名収容のメイン会場が満席の状態、これまで情報処理技術遺産や分散コンピュータ博物館の

ことをご存じなかった方々にも広く知っていただくことができたのではないかなと思う。

昨年と同様に、今回認定された情報処理技術遺産と分散コンピュータ博物館の写真と解説記事を 1 件ずつ載せた A0 サイズのポスターを会場の壁面に掲示した。

□ 情報処理技術遺産

今回認定された情報処理技術遺産は次の 8 件である。

- **潮候推算機**：潮候(海洋の潮の満ち干き)の予報計算に用いられた英国製の機械。1957 年製造。潮位変化は多数の単純な周期現象の和を計算することにより予想できる。この潮候推算機は、42 枚の偏芯したプーリー(円盤)により、その計算を自動化したもの。海上保安庁所蔵。
- **FACOM 201**：日本電信電話公社(現・日本電信電話)で開発された初のパラメトロン計算機 MUSASINO-1 の改良実用機である MUSASINO-



認定式の様子(写真左：古川会長、右：潮候推算機の所有者)



潮候推算機の認定証



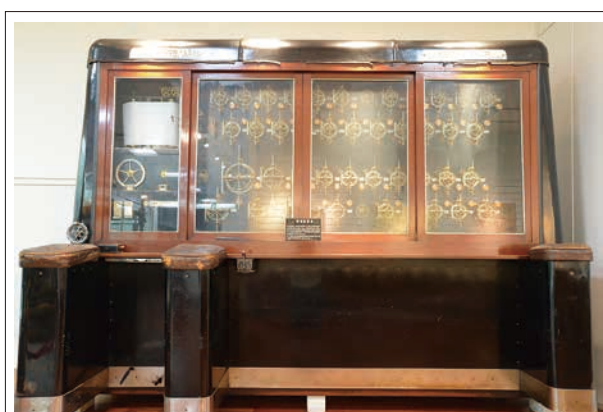
分散コンピュータ博物館プレート



当日展示されたポスター



パラメトロン論理素子を用いた電子計算機 FACOM 201



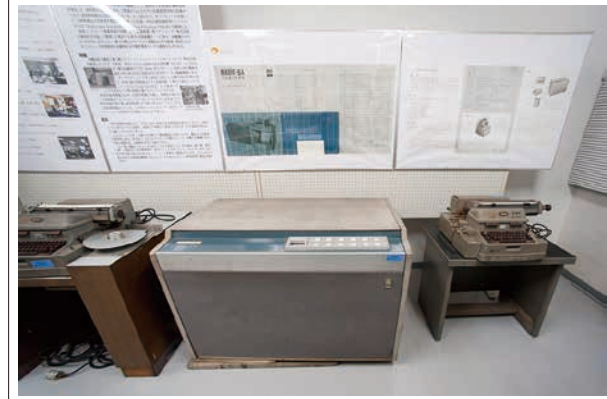
潮候推算機



月と太陽の引力項を表すブリー



MADIC-IIA システム



MADIC-IIA 本体とフレクソライタ

1Bの商用機として、1960年、富士通信機製造(現・富士通)が製造。入出力装置を備えた使用当時そのままの状態、東京理科大学で保存・展示されている。

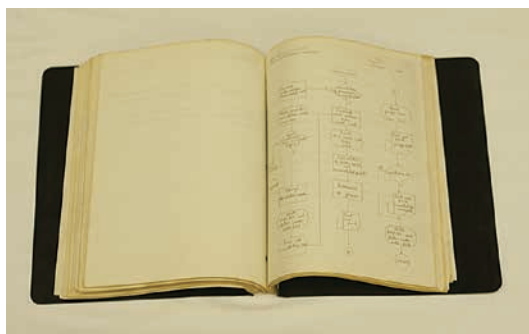
- **MADIC-IIA システム一式**：1963年に松下通信工業(現・パナソニックモバイルコミュニケーション)によって製造された小型の科学技術用トランジスタ計算機。内部記憶には磁気ドラムが使用されている。和歌山大学経済学部で使用されたシス

テム一式が同キャンパスで保存・展示されている。

- **東京オリンピック情報システム関連資料**：1964年の東京オリンピックで試合結果の集計や配信に使用された情報システムの設計書や出力リスト等の関連資料25品目。主として日本アイ・ビー・エムが作成したもので、同社に保管されている。初期のオンラインリアルタイムシステムの詳細を知ることができる。
- **USAC-1010**：オフコン初期の普及期の1つの原



東京オリンピック情報システム関連資料(一部)



詳細設計仕様書



オフコン初期の普及に貢献した USAC-1010



ワイヤドットプリンタ

型となったモデル。1966年、ウノケ電子工業(現・PFU)の製造。自治体業務や計算センター業務等小規模バッチ処理向けに広く利用され、当時の事



MARS-105 用座席予約端末装置

務の近代化に貢献した。カナ文字や英文字、特殊記号のパンチ/プリントが可能であるなど事務処理指向。

- **ワイヤドットプリンタ**：ドットの集合で128文字の文字パターンを印字可能。文字発生器と呼ばれる組み合わせた孔を持つ鉄板と、1文字を構成する縦7ドット×横5ドット分のワイヤからできている。活字による印字方式しかなかった当時としては画期的な方式。1968年、沖電気工業の製造。
- **MARS-105 用座席予約端末装置**：日本国有鉄道(現・JR)の座席予約システム MARS-105 用の端末装置。1975年、日立製作所の製造。入力機構に特徴があり、ブック形の表示板の該当ページを開き、入力したい内容に対応する穴にピンを差す



MZ-80K

ことによって1,600種の情報を入力する方式が採られた。

- **MZ-80K**：初期の代表的な8ビットパーソナルコンピュータの機種の一つ。1978年にシャープにより開発され、技術者トレーニング用のセミキットの形で製品化された。本体、ディスプレイ、キーボード、テープレコーダが一体の構造となっている。京都コンピュータ学院 KCG 資料館で保存・展示。

□ 今年の認定遺産の特徴

認定基準では、外国の技術・製品で価値が認められるものは対象としているが、これまでに認定された遺産はすべて国産であった。今年外国製の潮候推算機が認定されたことは特筆に値するだろう。

また、新しいカテゴリに属するものとして、東京オリンピック情報システム関連資料が挙げられる。これはハードウェアやソフトウェアそのものではなく、それらの開発に関する記録や成果としてのドキュメント類である。この種の史料も、技術を伝承していくには重要な役割を果たすものと考えられる。

□ 分散コンピュータ博物館

今回認定された分散コンピュータ博物館は次の1件である。

- **計算科学振興財団 高度計算科学研究支援センター展示コーナー**：スーパーコンピュータの歴史や最先端の利用事例を、実機やパネルの展示により



高度計算科学研究支援センター展示コーナー



「スーパーコンピュータ誕生と発展の歴史」パネル展示

分かりやすく紹介している。2011年に世界一となった「京」の隣接地にあり、スーパーコンピュータの産業利用促進と普及啓発活動の場となっている。

□ 私の詩と真実

認定式と同じ日の午前に「私の詩と真実」のセッションを開催した。これはコンピュータパイオニアの大先輩をお招きして、若い頃の研究生生活の思い出や今の若い世代に伝えたい経験談などをお話いただくシンポジウムである。第70回大会から開催しているので今回は第6回目となる。

今回は、日本電気OBの宮城嘉男氏に「半導体技術の進展を牽引したコンピュータ開発」と題して、また、マイクロプロセッサアーキテクトの嶋正利氏に「マイクロプロセッサの誕生と創造的開発」と題して、それぞれ大変参考になるご講演をいただいた。



「私の詩と真実」講演者 左：宮城嘉男氏，右：嶋正利氏



情報処理技術遺産パンフレット



日本情報産業新聞
2012/10/1 発行版

□取材の話その他

認定式関係の報告は以上であるが、おわりに「情報産業新聞」から昨取材を受け情報処理技術遺産制度の趣旨等について説明したことを紹介しておく。取材後まもなく、認定された遺産の写真や解説記事が連載された。

歴史特別委員会では、毎年パンフレット「情報処理技術遺産」を発行している。今年度認定されたもののほか、これまでに認定されたものすべての解説記事と写真が紹介されている。また、コンピュータ博物館*にも同様の内容が掲載されているのでご覧いただきたい。

(*) <http://museum.ipsj.or.jp/>

参考文献

- 1) 和田英一：情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館認定式，情報処理，Vol.50，No.5，pp.369-374 (May 2009).
- 2) 和田英一：平成 21 年度情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館認定式，情報処理，Vol.51，No.5，pp.593-596 (May 2010).
- 3) 旭 寛治：平成 22 年度情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館認定式，情報処理，Vol.52，No.6，pp.724-727 (May 2011).
- 4) 旭 寛治：2011 年度情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館認定式，情報処理，Vol.53，No.6，pp.600-604 (June 2012).

(2013 年 3 月 22 日受付)

□サイバーサイエンスセンター見学ツアー

全国大会の会場となった東北大学には、最新鋭のスーパーコンピュータ等を備えたサイバーサイエンスセンターがある。本センターの展示室には黎明期に製作されたコンピュータ SENAC-1 のパラメロンユニットや関連資料をはじめ、東北大学で使われた歴代のコンピュータの技術的発展が分かりやすく展示・解説されており、2009 年度に分散コンピュータ博物館に認定された。会期中には、招待講演で来日された IEEE-CS プレジデントの David A. Grier 氏が見学に訪れたほか、大会参加者のための見学ツアーも開催された。

旭 寛治 (正会員) asahi@fw.ipsj.or.jp

(株)日立製作所基本ソフトウェア本部長，ストレージソリューション本部長，(株)日立テクニカルコミュニケーションズ代表取締役等を歴任。1999 年本会理事，2005 年副会長。歴史特別委員会委員。コンピュータ博物館実行小委員会主査。本会フェロー。